

# 携帯電話によるインターネット利用状況等調査結果

平成21年3月  
山口県健康福祉部こども未来課

## 1 調査実施の概要

### (1) 調査の目的

携帯電話によるインターネットの利用状況並びに有害情報及び有害情報対策に関する青少年及びその保護者の認識等を把握し、青少年が携帯電話を安全に安心して利用できる環境の整備等の有害環境対策の推進に資する。

### (2) 調査の設計

#### ① 調査対象者

- ア 中学生・高校生  
県内に所在する中学校、高等学校の第2学年に在学する生徒
- イ 保護者  
調査対象である生徒の保護者

#### ② 調査対象者数

- ア 中学生・高校生  
3,991人（中学生2,360人・高校生1,631人）
- イ 保護者  
3,991人

#### ③ 調査対象者の抽出方法

- ア 中学生  
県内全20市町から各1校、合計20校を抽出した。
- イ 高校生  
市町を規模別に3区分し、各区分から各4校、合計12校を抽出した。

#### ④ 調査方法

調査は、あらかじめ作成した調査票を調査対象者に配付して行った。

#### ⑤ 調査期間

平成20年5月～6月

#### ⑥ 有効回答数

区 分	調査対象者数	有効回答数
<b>生徒合計</b>	<b>3,991</b>	<b>3,485</b>
中学生	2,360	2,180
高校生	1,631	1,305
<b>保護者合計</b>	<b>3,991</b>	<b>3,438</b>
中学生保護者	2,360	2,153
高校生保護者	1,631	1,285
<b>合 計</b>	<b>7,982</b>	<b>6,923</b>

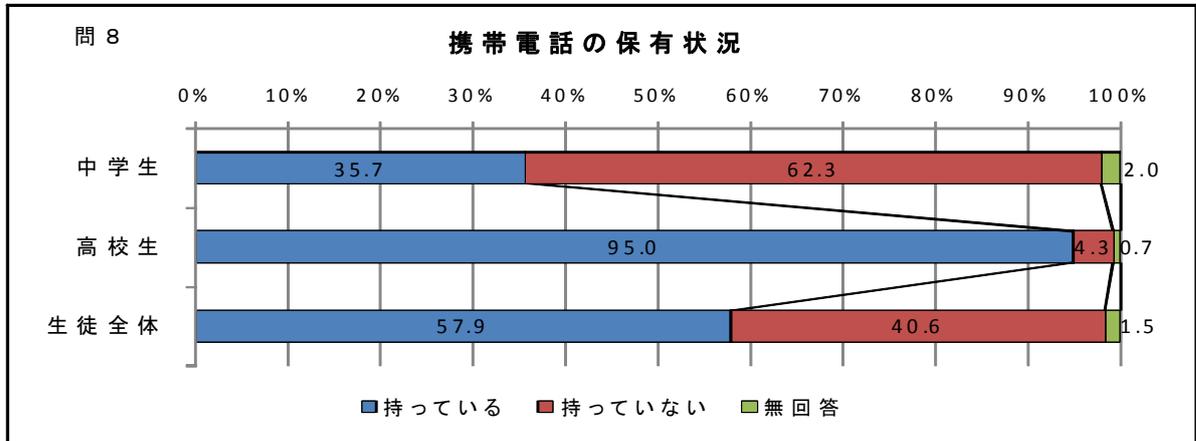
※ 有効回答数は、回収された調査データのうち、無回答が極端に多い等の不備のある調査票を分析対象から除外したものの。

## 2 調査結果の概要

### (1) 携帯電話の使用状況

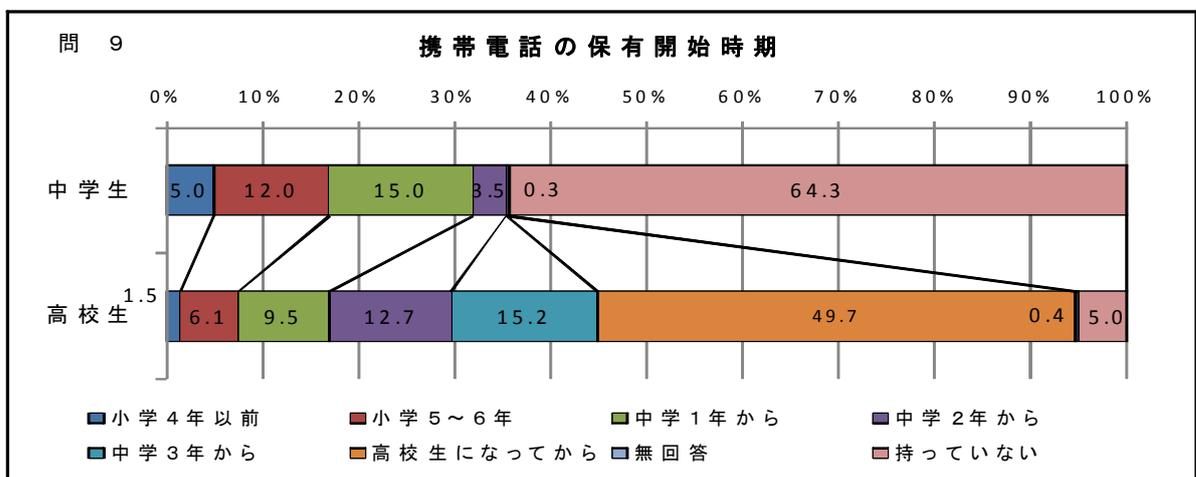
#### ○ 携帯電話の保有状況

生徒のうち、57.9%（2,019人、中学生35.7%、高校生95.0%）が携帯電話を保有している。



#### ○ 保有開始時期

携帯電話の保有開始時期は、高校生では「小学4年以前から」が1.5%（19人）、「小学5～6年から」が6.1%、「中学1年から」が9.5%、「中学2年から」が12.7%であるのに対して、中学生では「小学4年以前から」が5.0%（108人）、「小学5～6年から」が12.0%、「中学1年から」が15.0%、「中学2年から」が3.5%であり、携帯電話保有開始時期の低年齢化が進んでいる。



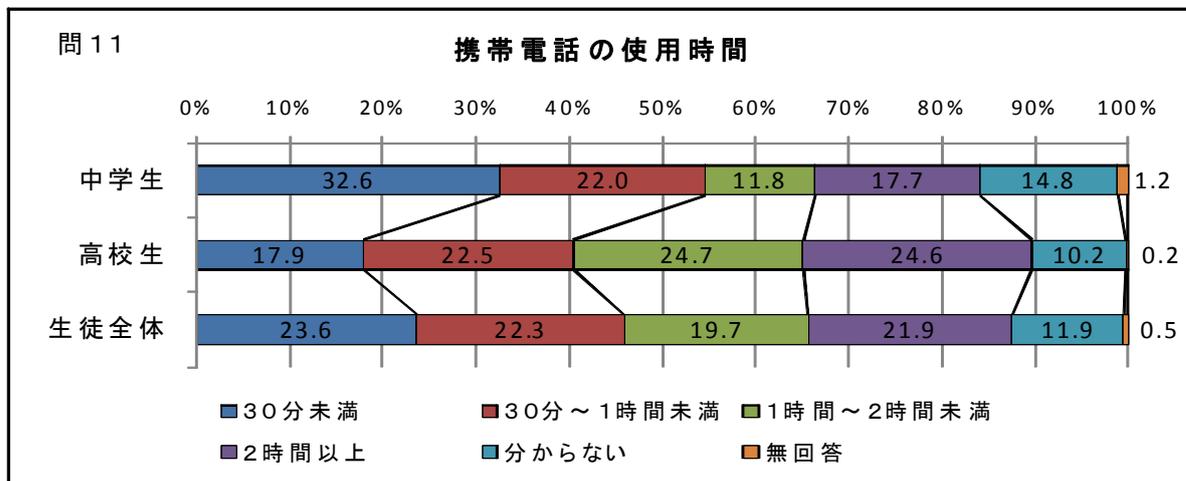
#### ○ 携帯電話を保有する理由

生徒が携帯電話を保有している理由について、保護者では「連絡のため」に子どもに持たせているとの回答が67.7%（1,405人）である。

これに対して、生徒では、「欲しかったから」、「友達が持っているから」という理由が53.3%（1,077人、中学生43.8%、高校生59.4%）、「連絡や防犯のため」が43.6%であり、保護者と生徒では、携帯電話を保有する理由に意識の差がある。

## ○ 携帯電話の使用時間

携帯電話の使用時間は、中学生では「30分未満」が32.6%（254人）、次いで「30分から1時間未満」が22.0%であり、「2時間以上」も17.7%となっている。  
高校生では、「1時間から2時間未満」が24.7%（306人）、「2時間以上」が24.6%（305人）であり、生徒が長時間、携帯電話を使用している状況である。



## ○ 通話以外の機能の利用状況

携帯電話の通話以外で最もよく利用する機能の利用状況は、中学生、高校生ともに「友人とのメール」が最も多く、生徒全体の60.0%（1,211人、中学生70.5%、高校生53.4%）で、次いで「インターネットの利用」26.9%（中学生12.2%、高校生36.1%）となっている。

保護者は子どもの利用状況について、「友人とのメール」が60.6%、次いで「保護者や家族とのメール」16.0%、「インターネットの利用」13.9%と考えている。

## (2) 携帯電話のインターネット利用状況

### ○ インターネットの利用内容

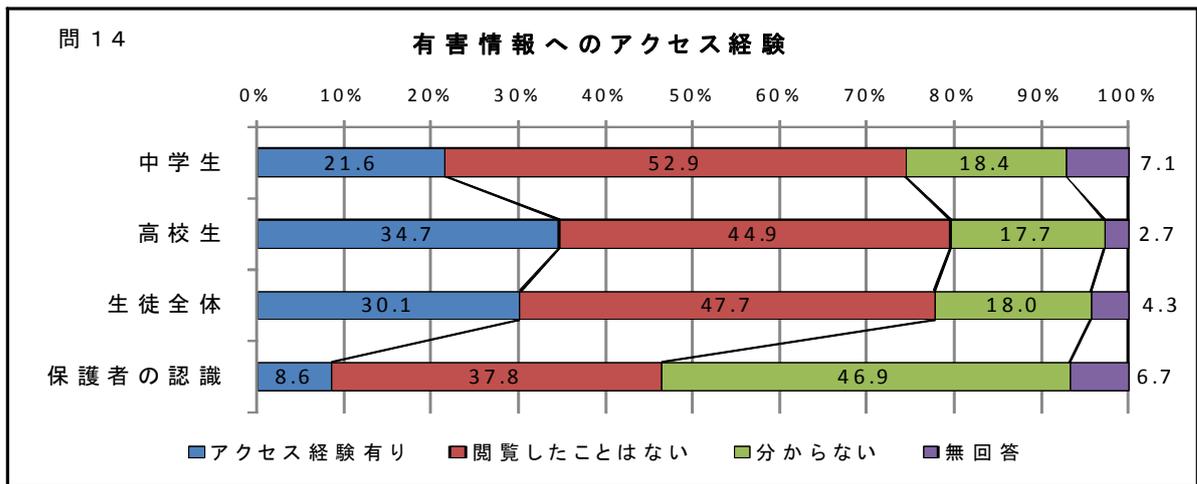
生徒がインターネットでよく利用する内容で、最も多いのが「音楽や動画のダウンロード」で61.3%（1,237人、中学生50.3%、高校生68.1%）であり、次いで「友人とのメール」47.1%（中学生42.9%、高校生49.8%）となっている。

また、33.6%（中学生21.2%、高校生41.5%）が、自分の自己紹介を掲載する「ブログ」を利用している。

### ○ 携帯電話から有害情報サイトへの接続状況

携帯電話を保有する生徒のうち、30.1%（545人、中学生21.6%、高校生34.7%）が、何らかの有害情報サイトに接続したことがあると回答している。

これに対して保護者は、自分の子どもが何らかの有害情報サイトに接続したことがあると回答しているのが8.6%（153人）で、「分からない」46.9%となっており、保護者が子どものインターネット利用状況を把握できていない状況である。



○ 有害情報サイトの内容

生徒が接続したことがある有害情報サイトのうち、「出会い系サイト」が10.5% (190人)、「学校裏サイト」11.4% (206人)、「掲示板等で他人の悪口を掲載したサイト」10.2% (184人) となっている。

○ 出会い系サイトに接続した理由

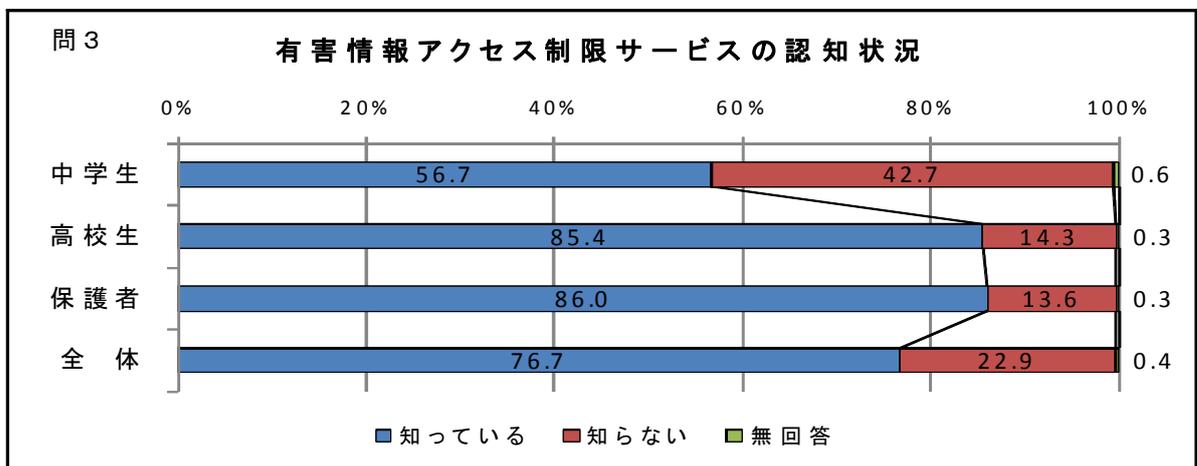
出会い系サイトに接続した理由については、誤って接続したものが過半数を占めているが、7.9% (15人) の生徒が「友人の話やテレビ、雑誌等を見て興味を持った」と回答している。

さらに出会い系サイトに接続した生徒のうち、10.5% (20人) が出会い系サイトを通じて知り合った相手を誘ったり、誘われたり、会ったりしたことがあると回答している。

(3) 有害情報アクセス制限サービスの認知率、利用状況

○ 有害情報アクセス制限サービスの認知状況

有害情報アクセス制限サービスについて、全体の76.7% (5,308人、中学生56.7%、高校生85.4%、保護者86.0%) が知っていると回答し、有害情報アクセス制限サービスの認知率は高い。



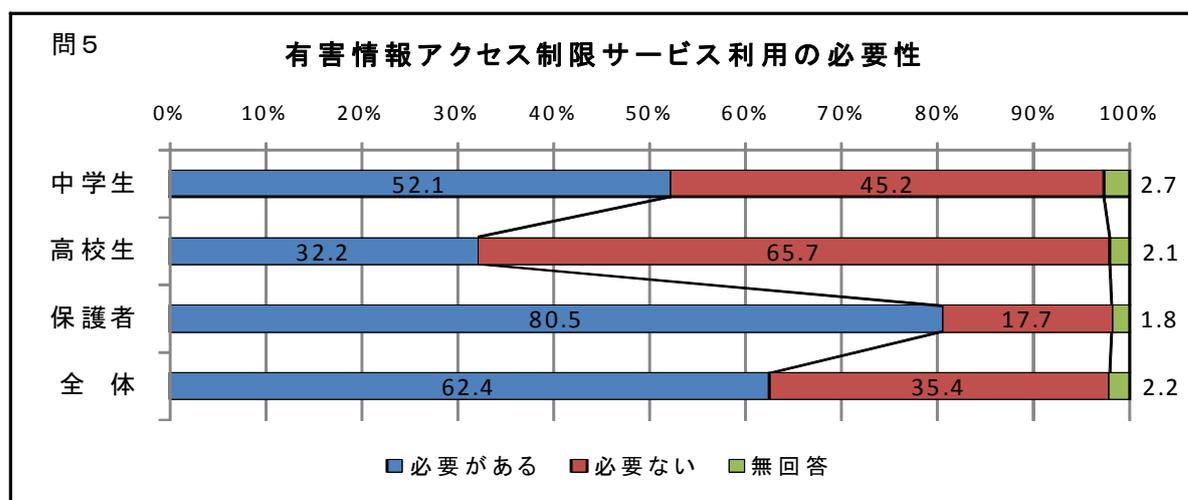
○ 有害情報アクセス制限サービスを知った経緯

有害情報アクセス制限サービスを知った経緯については、「パンフレットやテレビの広告等」が全体の46.5%（2,468人）と最も多く、次いで「携帯電話会社の店員からの説明」25.2%となっている。

なお、「学校での説明会」は、全体の13.4%（生徒12.0%、保護者14.5%）だった。

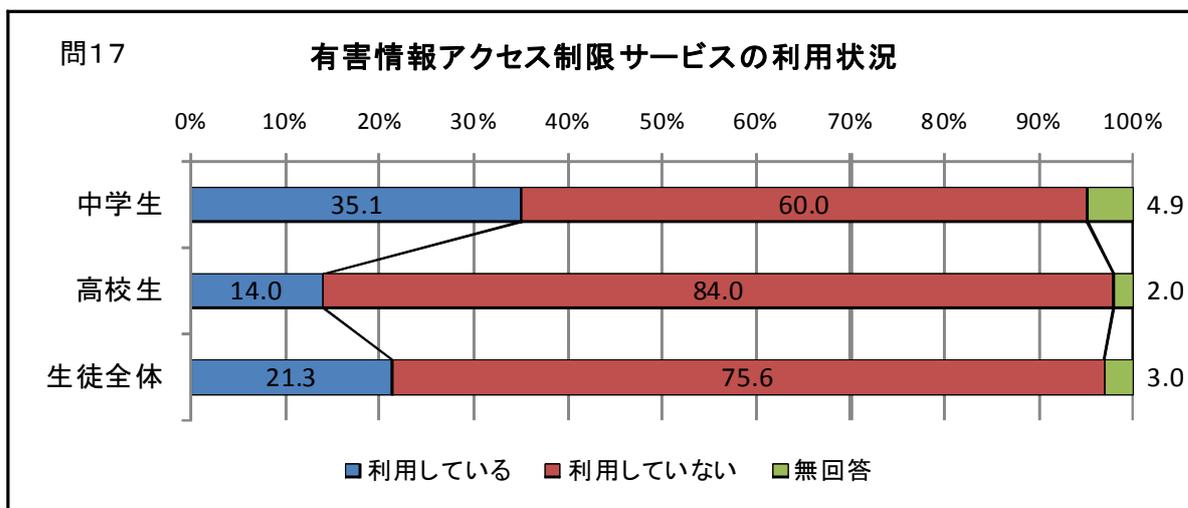
○ 携帯電話の有害情報アクセス制限サービスの必要性

携帯電話の有害情報アクセス制限サービスが「必要である」と回答したのは、全体の62.4%（4,323人）だが、生徒は44.6%と半数以下であるのに対して、保護者は80.5%と意識が高い。



○ 有害情報アクセス制限サービスの利用状況

携帯電話で「有害情報アクセス制限サービスを利用している」と回答したのは、23.0%（825人、生徒21.3%、保護者24.6%）であり、有害情報アクセス制限サービスの認知率及び必要であるという認識は高いが、実際の利用率は低い。



○ 有害情報アクセス制限サービス利用のきっかけ

「有害情報アクセス制限サービスを利用している」との回答のうち、利用したきっかけについては、「携帯電話会社の店員から説明を受けて」が全体の69.3%（572人、生徒78.0%、保護者61.7%）と最も多く、次いで、「県や学校での説明会を聞いて」が、12.4%、「テレビやCM等を見て」が11.9%となっている。

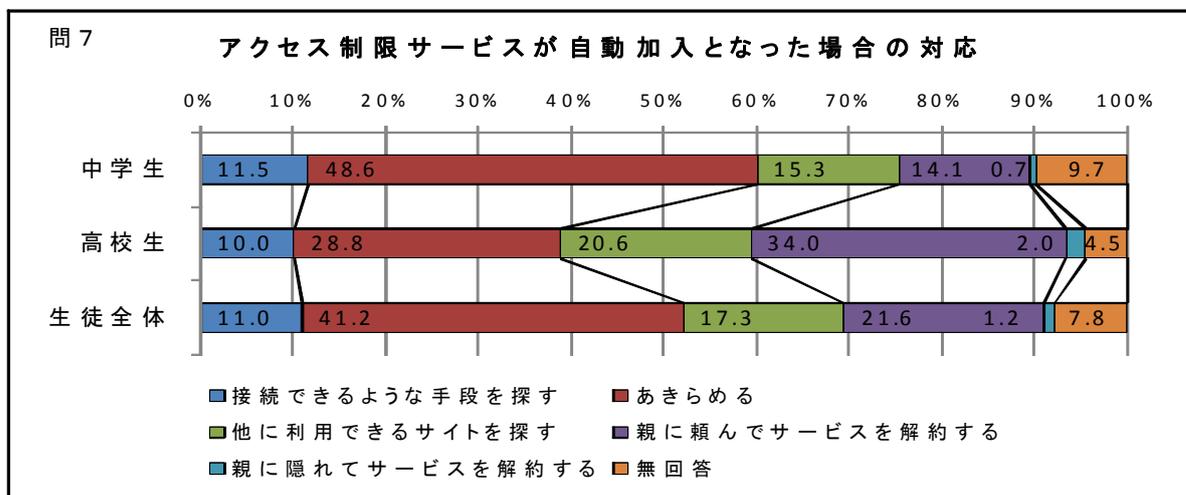
○ 有害情報アクセス制限サービスが必要ないと思う理由

有害情報アクセス制限サービスが必要ないと思う理由について、保護者では「必要な情報が得られなくなる」との回答が48.5%（295人）と最も多く、他に「無料で音楽のダウンロードができない」、「有害サイトにアクセスしない」、「子どもを信用している」、「自分（子ども自身）の責任」等があげられている。

生徒では「無料で音楽のダウンロードができないから」が52.6%（969人、中学生50.8%、高校生54.7%）で最も多く、次いで「必要な情報が得られなくなる」が45.7%、「掲示板やプロフが閲覧できなくなる」が34.8%である。

○ 有害情報アクセス制限サービス自動加入が始まった際の対応

有害情報アクセス制限サービスの自動加入がスタートした際の対応について、生徒、保護者ともに「あきらめる、あきらめさせる」が生徒41.2%（1,435人）、保護者72.6%（2,497人）と最も多いが、生徒のうち、21.6%（752人、中学生14.1%、高校生34.0%）が「親に頼んでサービスを解約する」と回答している。



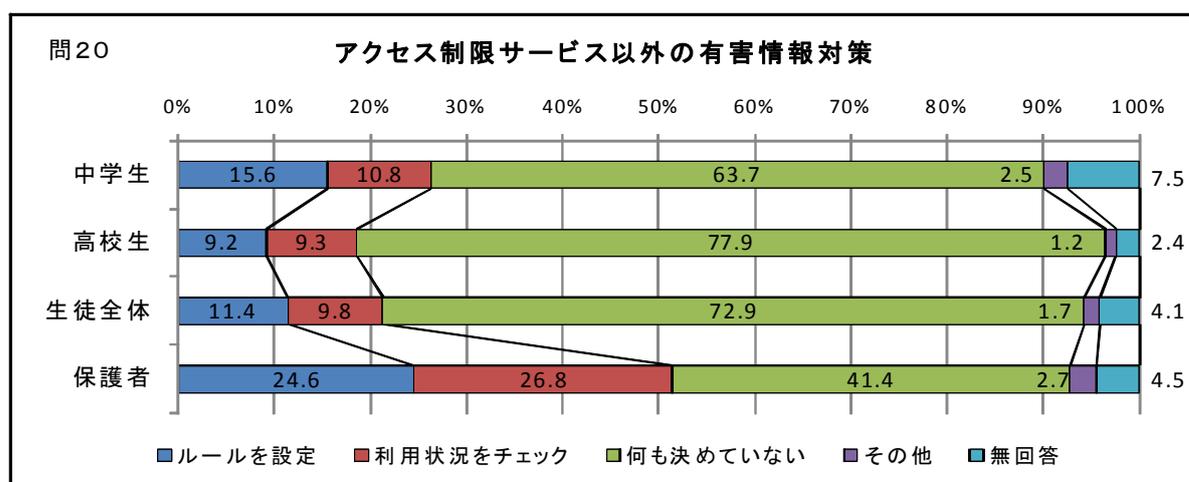
(4) 有害情報対策

○ 有害情報アクセス制限サービス以外の対策

有害情報アクセス制限サービス以外に行っている有害情報対策として、「保護者が利用状況をチェックする」18.3%（656人、生徒9.8%、保護者26.8%）、「何らかのルールを決めている」18.0%があげられている。

他に「子どもへの指導・教育」等があげられているが、「何も決めていない」との回答が全体の57.3%であった他、「子どもを信用している」、「自分で管理する」

等、何の対策も講じていない回答があり、有害情報アクセス制限サービス以外では、有害情報対策に関する認識が低い状況である。



### ○ 有害情報対策としてのルール内容

有害情報対策としてのルールには、「通話料金等の上限」が最も多く、他に「保護者の監視下での使用」や「利用時間の制限」、「携帯電話の利用機能の制限」等があげられている。

### ○ 有害情報による被害の防止対策

有害情報による被害の防止対策として、「各家庭での指導やルールの設定が重要」という回答が、51.8% (3,588人、生徒32.6%、保護者71.3%) であり、次いで、「サイト運営者側への規制強化」37.5%、「有害情報アクセス制限サービス等の積極的な利用」37.5%となっており、各家庭における指導やルールづくりが重要であるとの意識が高い。

